

平成 22 年 8 月 12 日

会社名 **株式会社 CSKホールディングス**
 代表者名 代表取締役社長 中西 毅
 問合せ先 経 理 部 長 岡 恭 彦
 電話番号 0 3 - 6 4 3 8 - 3 0 3 0
 (コード番号 9737 東証 第一部)

平成 23 年 3 月期 第 1 四半期連結決算の要旨

● 前年同期比サマリー

(単位:億円)

	2008/06	2009/06	2010/06	前年同期比増減	
				増減額	増減率
売上高	511.2	418.7	326.0	△92.6	△22.1%
営業利益	△97.5	△133.9	0.6	134.6	-
営業利益率	△7.3%	△32.0%	0.2%	-	-
経常利益	△30.0	△127.9	1.0	129.0	-
四半期純利益	△32.3	△140.4	△83.3	57.0	-

売上高 及び 営業利益 :

- ・ 売上高は、平成 22 年 4 月に株式譲渡したコスモ証券(株)及び情報サービス事業への選択と集中の方針のもと連結除外した会社の影響による減収に加え、厳しい環境の株式市場を背景に証券会社向けの取引が減少したこと等による影響により 326.0 億円（前年同期比 22.1%減）となりました。
- ・ 営業利益は、前連結会計年度より取り組んでまいりましたコスト構造の見直しに加え、金融サービス事業からの撤退により前年同期に計上した不動産関連の評価損等の影響がなくなったことから 0.6 億円（前年同期 133.9 億円の営業損失）と黒字回復いたしました。

経常利益 及び 四半期純利益 :

- ・ 経常利益は、営業利益に加え受取配当金やカード退蔵益等の営業外収益と支払利息等の営業外費用の影響により 1.0 億円（前年同期 127.9 億円の経常損失）となりました。
- ・ 四半期純利益は、証券事業撤退損失 89.0 億円、資産除去債務に関する会計基準の適用による過年度償却額等の一括計上 2.2 億円等の発生により、83.3 億円の四半期純損失（前年同期 140.4 億円の四半期純損失）となりました。

● セグメント別 業績（連結）【前年同期比較】

(単位: 億円)

	2009/06		2010/06		増減	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
情報サービス	374.9	7.8	334.8	9.2	△ 40.0	1.3
BPO	74.9	△ 3.9	74.6	1.0	△ 0.2	4.9
ITマネジメント	86.7	3.0	74.3	2.8	△ 12.3	△ 0.2
システム開発	213.2	8.6	185.8	5.3	△ 27.4	△ 3.3
プリペイドカード	7.2	0.6	9.5	1.6	2.3	0.9
報告セグメント 合計	382.1	8.5	344.4	10.8	△ 37.7	2.3
その他	63.4	△ 124.4	2.6	△ 1.2	△ 60.7	123.1
合計	445.5	△ 115.9	347.0	9.5	△ 98.5	125.5
調整額(HD等)	△ 26.8	△ 18.0	△ 21.0	△ 8.8	5.8	9.1
連結	418.7	△ 133.9	326.0	0.6	△ 92.6	134.6

※BPO、ITマネジメント、システム開発の3報告セグメント合計を情報サービスとし、前年同期(2009/06)については当第1四半期の報告セグメントに組み替えて表示しております。

※セグメント間取引の売上を含んでおります。また前年同期比については、参考として記載しております。

BPO

- 売上高は、検証サービスでの減少や不採算案件からの撤退の影響があるものの、コンタクトセンター関連の売上高が増加し 74.6 億円（前年同期比 0.4%減）とほぼ前年同期並みとなりました。営業利益は、不採算案件からの撤退やコスト削減の効果により 1.0 億円（前年同期 3.9 億円の営業損失）となりました。

ITマネジメント

- 売上高は、システム運用サービス及び機器販売の減少により 74.3 億円（前年同期比 14.3%減）となりました。営業利益は主に減収に伴い 2.8 億円（同 9.2%減）となりました。

システム開発

- 売上高は、主に証券会社向けASPサービス及び開発案件が減少し 185.8 億円（前年同期比 12.9%減）となりました。営業利益は主に減収に伴い 5.3 億円（同 38.6%減）となりました。

上記3報告セグメントを合計した情報サービスでは、IT市場全般の回復が遅れていることなどを背景に減収となる一方、コスト構造見直しによる削減効果等により増益を確保し、売上高 334.8 億円（前年同期比 10.7%減）、営業利益 9.2 億円（同 17.3%増）となりました。

プリペイドカード

- 売上高は、機器販売、カード発行関連売上増加等により 9.5 億円（前年同期比 32.5%増）となりました。営業利益は、増収及びコスト削減により 1.6 億円（同 149.7%増）となりました。

その他

- 売上高は、当第 1 四半期連結累計期間においては、ベンチャーキャピタル事業、投資信託委託業等での売上高であり、2.6 億円（前年同期比 95.9%減）となりました。なお、前年同期には撤退した証券事業や金融サービス事業等の売上高が含まれております。
- 営業利益は、1.2 億円（前年同期 124.4 億円の営業損失）の営業損失となりました。なお、前年同期の営業損失は、主に不動産関連の評価損等であります。

● 期末の見通し

経済環境は、依然として IT 投資抑制傾向が見られ、引き続き厳しい事業環境が続いておりますが、当社グループとしては競争力強化のため、「BPO」、「IT マネジメント」、「システム開発」3つの事業のより一層の連携・融合により、お客様に必要とされる最適なサービス提供を実現するグループ体制の整備を目的として平成22年10月1日付でグループ経営体制及び事業推進体制を純粋持株会社体制から事業持株会社体制へ移行することを予定しております。予想数値に関しては、現時点においては平成22年5月12日の公表値より変更ありませんが、本件に関する業績面の影響につきましては、確定次第速やかに開示いたします。

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期	1,600.0	100.0	93.0	5.0
参考：平成 22 年 3 月期実績	1,695.1	41.7	29.1	△591.8

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上